

## 原油先物は続落、コロナ第2波響き月間で約10%下落

【ニューヨーク 30日 ロイター】 - 米国時間の原油先物価格は続落。欧米での新型コロナウイルス感染拡大が重しとなり、月間ベースでも2カ月連続の下落となった。

清算値は、北海ブレント先物の期近物LCOc1が0.19ドル（0.5%）安の1バレル=37.46ドル。前日は一時5カ月ぶり安値を付けた。1月物LCOc2は0.32ドル安。

米WTI先物LCOc2は0.38ドル（1.05%）安の35.79ドルだった。前日は6月以来の34.92ドルに下落していた。

月間ベースではWTIが11%、北海ブレントが10%それぞれ下落した。

ライスタッド・エナジーの石油市場アナリストは「石油消費が多い大半の国では第1波時になかった感染レベルになっている」とし、ロックダウン（都市封鎖）導入で石油需要が影響を受けると述べた。

## 経営ひと言／石油連盟・杉森務会長「注意深く見守る」

(2020/10/29 05:00)

「予測は難しいが、環境対策にどう取り組むかで変わる」と、米大統領選がもたらす石油業界への影響について指摘するのは、石油連盟会長の杉森務さん。

トランプ、バイデンの両候補はシェールオイルについての考え方が違う。「シェールが規制されると原油価格に与える影響は大きい」とみている。

また「イランが核合意に復帰し、イラン原油が拡大することは大きな要素」とし、対イランの外交政策も石油業界を大きく左右すると分析。米大統領選の行方を注意深く見守る。

# ウメト インフォメーション

2020年 11月 2日 担当 小松

▶大手50社の4～9月期受注、9・0%減／公共増加も民間の落ち込み響く／国交省 [2020年11月2日2面]

国土交通省が10月30日に発表した建設大手50社の工事受注動態統計調査によると、2020年度上半期（4～9月）の受注総額は前年同期比9・0%減の5兆4899億円となった。公共工事は増加したものの民間工事の落ち込みが響いた。海外での受注も伸びなかった。

受注総額の内訳は、国内が6・7%減の5兆4194億円、海外が68・4%減の705億円。国内受注額の内訳を見ると、民間工事が15・0%減の3兆7208億円、公共工事が22・9%増の1兆4391億円だった。

民間工事は、製造業からの受注額が8261億円（前年同期比30・9%減）、非製造業からの受注額は2兆8947億円（9・1%減）とともに減少。公共工事は、国の機関からの受注額が8905億円（18・0%増）、地方機関からの受注額が5486億円（31・6%増）と大幅に増えた。

受注総額の内訳を工種別に見ると、建築が14・9%減の3兆4707億円、土木が3・3%増の2兆0192億円だった。



# ウメト インフォメーション

2020年 10 月 30 日 担当 小松

▶日本道路東北支店／ダンプ運行をタブレットで管理／宮城県岩沼市でシステム試行 [2020年10月30日6面]



運転手（右）にタブレット端末を手渡す事務職員

日本道路東北支店は、宮城県岩沼市のアスファルトプラント「仙台南アスコン」で同社が提案したダンプ運行管理システム「ND-LINK」を試行運用している。衛星利用測位システム（GPS）で取得したダンプの位置情報を活用し、タブレットを介したナビゲーションシステムを構築＝システム図。手作業で進めている運搬経路の地図印刷・配布を省略し、運送状況の把握や到着時間を予測することも可能になる。運転手の負担軽減やプラントの稼働率向上に役立てる。

ND-LINKは同社が提案し、システムソリューションプランニング（仙台市宮城野区）が開発。背景には東日本大震災後のダンプ運用の過密スケジュールがある。限られた台数を効率的に運用し、運転手や事務所職員の残業時間を減らしたいとの思いがきっかけになった。

日本道路東北支店は昨年10月からND-LINKの試行運用を開始。各現場に割けるダンプの台数を1現場当たり1台削減できることが分かった。位置情報によってダンプの戻り時間が予想しやすくなり、稼働計画を立てやすくなる。プラントの燃費を5%改善する効果も確認した。

プラントで生成されるアスファルト合材の配送状況に関する問い合わせにはスムーズに回答。運転手の高齢化も進む中、タブレット画面に表示されたボタンを押すだけでND-LINKの運用が始まる操作の簡易性も実現した。

日本道路東北支店の三塚利彦製販部長は「人手不足で現場にダンプを集めるのに苦労している。ND-LINKでダンプ運用の効率化を図りつつ、顧客への配送状況通知など新たな活用方法も模索しながら運用していきたい」と話した。今後、同支店発のモデルケースとして全社での本格運用を検討する。

仙台南アスコンは日本道路を代表企業とする「仙台南アスコン共同企業体」が運営。大林道路、ガイアート、鹿島道路も参画している。アスファルトプラントと建設廃材中間処理施設で構成。プラントで運用されるダンプの数は通常時が20台程度で、繁忙期などピーク時には約50台となる。現在、約10台でND-LINKの運用を試行している。

2020 年 10 月 30 日 担当者: 小松

出光の生分解性作動油

## ダフニービオスハイドロSE

国交省「NETTIS」に登録



アに分解されやすく、水質や土壌保全に配慮した環境適応型の生分解性作動油。一般に広く使われている鉱油系の作動油と比較して、更油期間や耐摩耗性などにおいて遜色無い品質を有する。

また環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる日本環境協会のエコマーク商品にも認定。

公共工事などに活用することで、総合評価方式および工事成績への加点が見込める。

作動油は、油圧装置の中で動力伝達媒体として使用されるもの。潤滑・防錆・冷却などの作用があり、クレーン・ショベルなどの建機、ダムの水門装置、道路工事機械、農耕機械など、さまざまな機械に使用されている。

NETTISは、国交省が公共工事などにおける新技術の活用のため、新技術に関わる情報の共有および提供を目的として整備したデータベースシステム。

出光興産が開発・販売する、生分解性作動油「ダフニービオスハイドロSE」(写真)が二八日、国土交通省の新技術情報提供システムNETTIS (New Technology Information System) に登録された。同社製品のNETTISへの登録は初となる。

「ダフニービオスハイドロSE」は、自然界に生息するバクテリア

今回の登録で、使用事業者は「ダフニービオスハイドロSE」を

油類報告新内